

● 出題の基本方針

主な出題目的は、例年通り①基礎的な英文法が身についているか、②英会話の流れを把握し慣用表現を正確に理解できるか、③やや長い英文を正しく理解できるか、を問うことです。

● 出題内容とねらい、採点講評

【1日目】

第1問は、英文法を問う問題です。全体の正答率は61%で、ねらう通りの結果でした。正答率が低かったのは⑥でした。「私は何をすべきか言われるのが好きではない」という意味で、受け身の表現の②being told が正答です。

第2問は、会話に沿って文法や慣用表現に答えられるかを問う問題です。全体の正答率は61%で、ねらう通りの結果でした。正答率が低かったのは④です。Aが「今晚インド料理を食べたほうがいいですね」、Bが「I love spicy food so much. (辛い料理が大好きです)」と会話しており、③が正答です。「大賛成です（直訳：これ以上同意できません）」という文脈です。

第3問は、英文法の知識や語彙力をベースに、長文を読む能力を問う問題です。全体の正答率は52%で、やや難しかったと言えます。(1)は、新型コロナウイルス感染症が社会に及ぼした影響に関する英文で、特に正答率が低かったのは⑨でした。protect oneself against が「防ぐ」あるいは「守る」という意味をもつため、①against が正答です。(2)は、在宅勤務者が、職場の仲間と会えないことを寂しがることが書かれた英文で、特に正答率が低かったのは⑤でした。コロナウイルスの感染拡大前、友人と出かけたことを懐かしんでいることを表現できるように、「～がないのを寂しく思う」という意味の④miss が正答です。

第4問は、長文読解能力を問う問題です。全体の正答率は68%で、相対的に易しい問題だったと言えます。日本における特殊な雇用条件とそのメリット・デメリットについて解説した英文で、正答率が低かったのは⑧と③でした。⑧は、「もし彼らが勤めている会社が倒産したら」という意味の文章なので、④for が入りwork for (～に勤める) が正答となります。③は、②の「終身雇用など3種の神器は、会社が倒産した際に仕事を失うリスクがある」が、正しい説明です。

【2日目】

第1問は、英文法を問う問題で、英文法の基礎的な力を問う問題です。全体の正答率は56%で、やや低かったです。一番正答率が低かったのは④でした。「残念ですが、あなたは終電に乗り遅れたと思います。終電は10分前に発車したのです」とあり、時制から考えると現在完了形で②have missed が正答です。

第2問は、会話に沿って文法や慣用表現に答えられるかを問う問題です。全体の正答率は64%で、ねらう通りの結果となりました。正答率が低かったのは③です。Aが「いま何をしていますか」と尋ね、Bが「12月末に東京旅行に行く計画をしています。だからいまネットでホテルを探しています」と答えており、④のcheck out は、「～を調べる」という意味で正答です。

第3問は、英文法の知識や語彙力をベースに、長文を読む能力を問う問題です。全体の正答率は57%で、やや難しかったと言えます。(1)は、日本の食生活が海外の影響を受けて、健康的でなくなっていることを書いた英文で、特に正答率が低かったのは⑩です。that 以下において「食生活の変化のいくつかは不健康である」と述べているので、①note を入れて、「そのことに留意することが重要だ」という文章にするのが自然です。(2)は、日本のポップカルチャー（大衆文化）が、世界中に普及していることを述べた英文で、特に正答率が低かったのは④です。後に続く so が直前の「映画が美しいグラフィックと社会的メッセージを組み合わせること」を指し、with 以降が「子どもも大人も楽しめるプロット（筋書き）」となっているので、②did が入ります。

第4問は、長文読解能力を問う問題です。全体の正答率は71%で、相対的に易しい問題だったと言えます。世界とアメリカの人々における幸福度について説明した英文で、正答率が低かったのは⑨でした。「様々な分野でアメリカが世界をリードしている」という意味の文章となるため、④leads が正答です。

● 学習上のアドバイス

英語の問題は、基礎的な文法、会話の読み取り、短文と長文の読解力が問われます。基礎的な文法や語彙力を身につけるために、繰り返し問題を解くように心がけましょう。また、長文読解では、普段の学習から、文章のタイトルや著者の観点を示すセンテンスを理解することを心がけてください。

● 出題の基本方針

国語は、様々な分野の論説を素材として、文章間の論理的なつながり、各文章の正確な理解、文章全体の趣旨の把握を問うという基本方針で出題しました。

● 出題内容とねらい、採点講評

【1日目】

第1問は、阿部謹也『「世間」とは何か』から出題しました。西欧由来の「社会」という言葉ではなく、我々が慣れ親しんだ「世間」という言葉に、日本社会や日本人を読み解く鍵があるのではないかと論じた文章です。文章全体や各段落の意味を正確に把握できているかを中心に問いました。平均正答率は約53%で、やや難易度が高かったようです。問1、問2のような文章の一部の意味を問う問題は正答率がとてもよいのですが（約80～90%）、問5、問8、問9のように、文章のまとめや文章全体の意味を問う問題になると途端に正答率が低くなりました（約10～50%）。1文1文を読みつつも、全体の流れはどうなっているのか、筆者は何が言いたいのかということを常に意識して文章を読むようにするとよいでしょう。

第2問は、清水真木『新・風景論 哲学的考察』から出題しました。普段私たちが何気なく眺めている「風景」について、美学的な観点から再考した文章です。文章全体をしっかりと読み込んだうえで、筆者の立場や主張を正しく理解できているかを問いました。平均正答率は約49%で、比較的難易度が高かったようです。中でも問3、問6（イ）の正答率の低さが目立ちました（約19～25%）。問3は一見難解そうな原文の意味を問う問題ですが、それぞれの語句の意味や前後の文章の関係性をしっかりと理解できていれば、正解にたどり着けたのではないのでしょうか。問6（イ）は段落冒頭の語句を選ぶ問題です。最も多かった誤答は④ですが、正答とは逆の意味になってしまいます。文章をしっかりと読んで十分内容を理解するようにしましょう。

第3問は、漢字の問題です。書き言葉特有の漢字を中心に同音異義語で紛らわしい漢字を判別できるかを問いました。日頃から硬質な文章に親しんでいるかを問うねらいがあります。平均正答率は約43%で、難易度が高かったようです。特に問5、問8、問10は正答率が低くなりました（約20%）。とはいえ、漢字自体は難しいものではなく、日頃から文章に親しんでいれば、漢字対策を特にしなくても正答できたはずで

【2日目】

第1問は、佐野典代『ものがたり 茶と中国の思想』から出題しました。全体的に平易な文章で、お茶にまつわる筆者の体験が情感豊かに表現されています。文章を読み進める中で、その場の情景や人々の心情の変化を正しく把握できているかを問いました。平均正答率は約71%で、全体的によくできていました。しかし比較的正答率が低かった問題（問1、問10、いずれも約52%）では、あまり熟考せずに答えを導き出している印象を受けました。文章量が多かったため、長文を部分的に読み飛ばしながら解答した人が多かったのかもしれませんが、限られた時間の中ではありますが、文章をていねいに読むように心がけましょう。

第2問は、ヤニス・バルファキス（関美和 訳）『父が娘に語る経済の話』から出題しました。普段あまり読む機会がないであろう経済に関する文章です。制限された場所で限られた物しかない状況下でも、経済と無縁ではなく、交換価値が重要なキーワードになっています。時間をかけて読むことができない中で、素早く本質をつかむことができるかを問いました。平均正答率は約80%と出題者の予想を上回る高い値でした。経済の話ではありますが、課題文のタイトルにもあるように、できるだけわかりやすくすることを意図している文章です。ただ、問1と問8の⑦の正答率は、やや低めでした。問1は最初の問題であったためまだ全体の理解が十分ではなく、または時間をかけずに次に進んだのかもしれませんが、すぐに答えがわからなかった場合も、見直すなどもう一度考えれば正答できたと思います。

第3問は、複数の同音異義の漢字の中から正答を見つける問題です。正答率は約80%で、第2問に続いて非常によくできていました。問7と問9は選択肢のカタカナが全て同じという問題でしたが、問7は全体の正答率よりもさらに高く、問9も80%に近い値でした。問2がやや難しかったようですが、それでも70%近い正答率でした。

● 学習上のアドバイス

日頃から多くの文章に触れることが、国語を得意科目とするための一番の近道です。興味のある分野はもちろん、時々異なる分野の本にも挑戦してください。新聞で速読の練習をするのもよいでしょう。点数アップにつながるだけでなく、皆さんにいろいろな知識をもたらす豊かな人間性を育むことにもつながります。

● 出題の基本方針

現代社会は、教科書の内容に関する理解と、それに基づいて資料やデータを読み解く素養を問う出題となっています。また、最近の重要な新聞記事やニュースについても時事問題として出題しています。

● 出題内容とねらい、採点講評**【1日目】**

第1問は、大企業と中小企業との格差や関係性、近年の雇用について問う設問です。正答率は70%を上回る結果となりました。一方、設問ごとの正答率にはかなりのばらつきがあり、問1(1)・(3)、問3、問5(3)は平均して90%近い正答率でしたが、それ以外の設問の正答率は概ね60%を下回りました。教科書の範囲内の知識で答えられる問題なので、教科書をしっかり読んで理解しておくことが重要です。

第2問は、日本の少子高齢化の進展について、データを読み解きながら考える問題です。正答率は約60%で想定通りの結果でした。女性の労働や男女の平等についての問4(2)、および高齢者1人を支える現役世代の人数についての問5(2)の正答率が非常に低くとどまりました。男女の格差や少子高齢化の問題は、日本が抱える重要な問題で、全ての人の生活や働き方に関わることであるため、現状や格差を是正する取り組みについても知っておいてください。

第3問は、日本の政治体制や憲法について問う設問です。平均正答率はおおよそ60%で、想定通りの結果でした。ただし、サンフランシスコ講和条約についての問2の正答率は非常に低くとどまりました。誤答の多くは②満州でしたが、教科書をよく読めば誤りであることがわかります。また、日本の安全保障問題に関わる問6の正答率も約35%と低くとどまりました。この設問も、私たちの安全に影響を与える重要な内容であり、教科書レベルの平易な内容なので、必ず知っておかなくてはならない基本事項です。

【2日目】

第1問は、長時間労働問題によせて、労働関連の知識を問う設問です。平均正答率は約70%で、想定よりも高くなりました。労働委員会の役割や時事問題の出題もあり、難易度はやや高めですが、全体としてよくできていました。ただし、前半の設問に比べて後半の設問の正答率が低く、特に労働委員会に関する問4(3)

や派遣労働者に関する問5の正答率は低くとどまりました。教科書の語句を暗記するだけでなく、その内容について考え理解を深めるようにしてください。

第2問は、国際貿易の動向について、データを読み解きながら考える問題です。正答率は低く60%を下回りました。特に重要な出来事と為替レートに関連についての問1や、日本の主要な輸出品、輸入品についての問5の正答率が低くとどまりました。日本や世界における様々な出来事や、日本がどのような産業に比較優位があり、どのような品目を輸入に頼っているかといったことは、いずれもが私たちの暮らしに重要な影響を与えるので、正しい理解が求められます。

第3問は、環境や社会の問題と国際的な投資環境について問う問題で、70%強の正答率を想定していましたが、実際の正答率は80%となりました。特にSDGsについての問1(2)は97%の正答率となりました。一方、比較的正答率が低かったのは、国際機関や法律の名前を答える問1(4)や、問4(2)で、これらの問題の正答率は70%を下回りました。こうした正答率の分布は、SDGsのように日常的に耳にする言葉にとどまらず、様々な問題について教科書や資料集を読みこんで、自分で知識を深めるような学習が必要だということを示唆しています。

● 学習上のアドバイス

現代社会は、単なる入学試験科目というだけではなく、私たちの社会の仕組みやルールを理解するうえで重要な知識が得られる科目です。

学習の基本は、教科書や資料集をよく読んで内容を理解することです。ただし、教科書に太字で書かれているような用語を暗記するような勉強法ではなく、一つ一つの制度や法律にどのような意図があるのかということや、どのような問題点があるのかといったことをじっくりと考えることが重要です。

また、社会の状況は日々変化しています。教科書の記述は必ずしも最新であるとは限らないので、新聞やニュースの内容をチェックしたり、自分で最新のデータを調べてみたりするといったことも重要です。

● 出題の基本方針

出題範囲は「数学Ⅰ・Ⅱ・A」です。出題の主な目的は、基礎的な計算・数学的な思考ができるかどうか、公式を正しく理解して応用できるかどうかを問うことです。したがって、出題の基本方針は、難問や奇問を避けて基礎的な問題とその応用問題を中心に出题するということです。

● 出題内容とねらい、採点講評

【1日目】

第1問は5つの小問から成り立っています。具体的には、因数分解、平方根、集合と命題、恒等式、二項定理について出題しました。

第2問は2次関数のグラフについて理解を問う問題です。具体的には、2次関数のグラフの頂点、2次関数の最大値、グラフと直線が接する条件および接点、グラフと x 軸の負の部分が異なる2点で交わる条件に関する問題を出題しました。

第3問は確率に関する問題です。赤と白の2種類もしくは赤、白、黒の3種類の球が入った3つの袋から、ある定められたルールに従って2回球を取り出す状況について出題しました。

第1問の正答率は7割超でした。問1は9割超、問2は7～9割、問3は5～7割、問4は6割超、問5は5～6割超でした。集合と命題に関して出題された問3、恒等式に関して出題された問4、二項定理に関して出題された問5は比較的正答率が低めでした。近年の公募推薦では、これらの範囲から出題されることが少なかったため、正答率が低かったのかもしれませんが。問題自体は基本的なものですので、教科書を読むなどして理解を深めておいてほしいと思います。

第2問の正答率は7割でした。問1は9割超、問2は3～7割超、問3は4～8割、問4は5～6割でした。問2ではパラメータの値で場合分けをして、2次関数の最大値を求めさせる問題でしたが、場合分けに関する部分の正答率が特に低かったです。同様に正答率が低かった問3ですが、接点の座標を求めさせる問題の正答率が特に低かったです。

第3問の正答率は6割超でした。問1は9割超、問2は4割超、問3は4割超、問4は5割超でした。正答率が低かった問2、問3、問4はいずれも条件付き確率に関する問題でした。条件付き確率の定義については、教科書できちんと復習しておきましょう。

【2日目】

第1問は5つの小問から成り立っています。具体的には、因数分解、指数方程式、二項定理、データの分析、集合と命題について出題しました。

第2問は2次関数のグラフについて理解を問う問題です。具体的には、グラフの頂点の座標、グラフがある点を通るときの定数 a に関する最小値の問題、グラフの平行移動、グラフが x 軸の正の部分と異なる2点で交わる条件について出題しました。

第3問は、確率に関する問題です。異なる配分で赤球と白球が入った袋をもつ2人が、袋から球を繰り返し取り出す試行を行い、出た球の色に応じて点数を得る状況に関して確率を計算する問題を出題しました。

第1問の正答率は7割でした。問1は8割超、問2は7～8割、問3は6～7割、問4は3～9割、問5は2～5割でした。問4では四分位偏差についての問題の正答率が特に低かったです。教科書で四分位偏差の定義を確認しておきましょう。また、問5は4択問題にもかかわらずかなり低い正答率でした。必要条件、十分条件、必要十分条件などの概念を教科書で復習しておきましょう。

第2問の正答率は8割でした。問1は9割前後、問2は6～9割、問3は8～9割、問4は7割超の正答率でした。全体的に正答率は高めでしたが、問2の最小値を答えさせる問題の正答率がやや低めでした。

第3問の正答率は6割でした。問1は9割超、問2は4～9割、問3は4～9割、問4は1割弱でした。問題の設定がやや複雑だったため、全体的に正答率が低かったのかもしれませんが。また、特に正答率が低かった問4は条件付き確率の問題でした。条件付き確率については、教科書で復習しておきましょう。

● 学習上のアドバイス

数学の問題は、基礎的な演算能力や公式の理解力を問う問題ばかりです。したがって、難解な参考書を学習する必要はなく、高校の教科書を繰り返し復習し、実際に解けなかった問題は何度でもトライしましょう。公式は、単に暗記するだけでなく、時間をかけて意味を理解してください。グラフに関する問題は実際に自分でグラフを描いて考えるようにしましょう。

● 出題の基本方針

例年通り、各方式・日程の正答率が60%前後となるように語彙、文法、会話、読解問題を配置し、英語の基礎力を総合的に測ることを基本方針としています。

● 出題内容とねらい、採点講評

出題内容

各方式・日程の第1問から第3問は、ほぼ以下のよう構成になっています。

第1問 英文整序問題

第2問 文法・語彙・語法問題

第3問 会話文問題

第4問以降については、A・D方式では空所補充問題と長文読解問題が、B方式では空所補充問題と中文読解問題、長文読解問題などが出題されます。

出題のねらい

(1) 英文整序問題や文法・語彙・語法問題では、語彙・イディオム、文法・語法の基礎的な英語力を確認します。特に、英作文を書き慣れているかどうかを確認するための問題を作成しました。これは普段から英文をどれだけ読んでいるのかにも影響を受けます。英語に触れる機会を増やすことが、より多く得点するための近道になります。

(2) 会話文問題では、短い会話文の中で、実際に英会話で使用される表現を理解できているかどうかを確認すると同時に、文脈に応じて対話する能力をもっているかどうかを確認しています。より多く得点するためには、実際の生活の中で使われる口語表現に慣れる必要があります。英語のテレビドラマを英語字幕つきで見るとは楽しみながら英語表現を学ぶ機会につながるのではないのでしょうか。

(3) 空所補充問題では、英文を正しく理解する力を問います。文章の内容を理解できているのかを確認すると同時に、空所に入る単語や適切な活用形を選ぶことができるのかを問うことによって、語彙力や文法力を包括的に確認しています。

(4) 中文読解問題、長文読解問題は、英文の理解力を総合的に問う問題です。内容理解、欠文挿入問題などがあります。文章量は多めなので、語彙力が乏しいと素早く読んで意味を把握できないと思います。段落ごとの内容に加えて、前後の段落を踏まえて話の流れを把握するように心がけてほしいと思います。

採点講評

(1)・(2) 英文整序問題および文法・語彙・語法問題

では基本的なレベルの単語が使用されています。例年正答率の高い問題ですが、前置詞を含む句動詞や慣用表現の問題で正答率が低くなる傾向があります。単語学習の際には単語の意味を覚えるだけでなく、それぞれの単語がどのように使われるのか、コロケーション(語のつながり方)も含めて学ぶことを心がけましょう。

(3) 会話文問題は全般的に正答率が高く、よくできていました。一般的な2人の話者だけでなく3人以上のグループの会話文もありますので、場面や登場人物を正確に把握できるようにしてください。

(4) 空所補充問題、中文読解問題、長文読解問題では本文中に難易度の高い単語が出てくることがありますが、意味がわからない場合でも前後の文脈から読み取ることのできる力をつけてください。長文読解問題が苦手な人が多いようで、特に内容真偽問題の正答率が低い傾向にあります。文章を正確に読み取り、正解を見つけましょう。

● 学習上のアドバイス

第一に、基本的な語彙力をつけることが重要です。語彙学習の際には単語本の2000語レベルをマスターし、さらに上のレベルを目指すよう心がけてください。単語本だけでなく、教科書やその他のテキストで出てきた意味のわからない単語・イディオムについても、その都度意味と使い方を調べ、それらを使って文章が書けるまで理解を深めてください。

また、基本的な文法に対する理解を深めることも大切です。高校までで学んだ関係詞、仮定法、不定詞、動名詞などの主な文法・語法は問題に正解するだけでなく、なぜそれが正解となるのか説明できるようになるまで、文の構造や意味をしっかりと理解しましょう。

会話文問題では学校、ビジネス、旅行などの様々なシーンで繰り広げられるやりとりを正確に把握できるよう、多様な会話に慣れておきましょう。教科書や参考書に加え、英語のニュース、インタビュー、映画などの動画を活用して学習することもできるでしょう。初めて聞く表現があれば、辞書で意味を確認しましょう。

長文問題に苦手意識をもつ人が多いですが、日頃から様々なテーマや形式の英文に幅広く触れて、英文を読む力をつけてください。子供向けの絵本などから始めて徐々に語数や難易度を上げていくことで、語彙力を高められるでしょう。また、時間を計りながら読むことで読むスピードを意識することもできます。

● 出題の基本方針

国語の出題の基本方針として次のような能力を期待し作問しています。

まず、ある程度の量の文章を読み通すことができること。多くの問題の課題文は6ページ前後あります。定められた時間でこの文章を読み込み、考えて解くことに慣れていくことが期待されます。次に文章の意味を十全に理解できること。具体的には、文の意味、文章中の各段落間の関係をしっかり捉えられることが期待されます。たとえば文章の中の指示語の内容を適切に理解できているか、接続詞の適切な使用を選ぶことができるか、文意において適切な文章の順番を導けるか。こうした形式の問題は、本文の理解について問うたものです。加えて、ことわざや熟語などの日本語表現についての知識をもっていること。そして、漢字についての知識をもっていること。

こうした能力を想定し、各問題は出題されています。

● 出題内容とねらい、採点講評

A方式1日目は第一問が中澤瞳「女の子らしい身振りとは何か？」(稲原美苗他編『フェミニスト現象学入門』所収)、第二問が弓削達『地中海世界』からの出題でした。前者は哲学、後者は歴史に関する文章です。第一問において正答率が低かったものは問6(29.4%)、問9(37.5%)でした。第二問において正答率が低かったものは問6(43.8%)、問7(44.0%)でした。

A方式2日目は第一問が品川哲彦『倫理学入門』、第二問は清水和子『ディズニーと動物』から出題しました。前者は倫理学、後者は文化に関する文章です。第一問において正答率が低かったものは問3(49.7%)、問8(35.8%)でした。第二問において正答率が低かったものは問7(40.3%)でした。

A方式3日目は第一問が森博嗣『勉強の価値』、第二問が西崎憲『流通・文化・倫理・詩性』からの出題でした。前者はタイトルにもある通り勉強することについての文章、後者は詩に関する文章です。第一問において正答率が低かったものは問7(30.0%)でした。第二問は全体的に正答率が高かったです。

B方式1日目は第一問が上田紀行『かけがえのない人間』、第二問(古典)が平安時代の歌物語『大和物語』の百二十六段「水汲む女」からの出題でした。前者は人間の心理に関する文章、後者は年老いた女性

(檜垣の御)と国司(野大式)の物語で、和歌を含んだ文章です。第一問において正答率が低かったものは問5(42.5%)、問8(48.6%)でした。第二問において正答率が低かったものは問3(15.7%)、問9(40.8%)でした。

B方式2日目は第一問が小塚壮一郎『AIの時代と法』、第二問(古典)が『平家物語』の巻第八「緒環」からの出題でした。前者は法律に関する文章、後者は女性と人間の男性に化けた蛇との物語です。第一問は正答率が低い問題が多かったです。特に正答率が低かったものは問2(29.4%)、問10(34.0%)、問11Ⓐ(28.5%)でした。第二問において正答率が低かったものは問5(43.4%)でした。

D方式は第一問が矢野智司『意味が躍動する生とは何か』、第二問が太田肇『「超」働き方改革』からの出題でした。前者は教育学、後者は組織論に関する文章です。第一問において正答率が低かったものは問6(17.9%)、問8(14.3%)でした。第二問は正答率が低い問題が多かったです。特に正答率が低かったのは、問2(45.3%)、問3(24.2%)、問4(48.4%)、問5(43.3%)、問6(43.3%)、問7(27.8%)でした。

● 学習上のアドバイス

国語の試験では、多様なジャンルの文章から出題されています。出題される文章もある程度の量があります。日頃から、多様なジャンルの文章を幅広く、多く読むことが大切です。

そのための学習として、はじめは自分の関心のあるテーマのものでよいので、少し長めの文章を読むこと、できれば時間を決めて、集中して読むことに慣れるとよいでしょう。そのうえで段落や文章全体の内容を正確に読み取る能力を身につけるようにしましょう。特に指示語の内容や、段落間の関係を示す接続詞の使用に注目して読むようにすることで、その文章が何を主張しているのか、より明確に理解することができます。

さらに幅広くたくさん文章を読むことで、熟語やことわざなどの慣用表現の知識も身につけていきます。知識が身につけば、さらに読むことが楽しくなるでしょう。漢字の問題は基本的に熟語についての知識を前提とするものなので、しっかり文章を読めるようになれば、自ずと解けるようになるはずですよ。

● 出題の基本方針

全方式・日程を通じて大問2題からなる出題です。そのうち、A方式・B方式は第1問が近世以前（江戸中期まで）、第2問が近代以後に分かれるのに対し、D方式のみ両問とも近代以後を出題範囲としています。

全方式・日程を通じて、古代から現代に至る全時代の様々な分野について網羅するように配慮しています。設問は、語句選択、正誤問題、年代配列問題などから構成されています。解答は全てマーク式の4択です。

問題作成にあたっては、高校の教科書に掲載されているところからの出題を基本としています。教科書の記述に加え、説明を補完している写真や文献・史料、図表やグラフなども利用して、それぞれの出来事と時代背景との関わりとを問うことを旨としています。

問題の難易度に関して言えば、中には正答率の低いものも含まれますが、いわゆる難問・奇問の類は避け、高校での学習内容に即した出題を心がけています。

● 出題内容とねらい、採点講評

A方式1日目の第1問は、(1)飛鳥時代の政治、(2)摂関期の政治と文化、特に女性に焦点を当てています。(3)は鎌倉幕府で北条氏が台頭する過程が中心です。(4)は江戸時代の朝廷です。第2問は、(1)日本の政治と外交を俯瞰的に捉える問題、(2)「大正デモクラシー」期の政治と思想、(3)満州事変以降の政治、(4)文学・音楽・絵画といった文化全般から出題しました。A方式2日目の第1問は、(1)日本の農耕生活を俯瞰する問題、(2)古代から中世にかけての女性史、(3)前近代の日本の国際関係、(4)は琉球を、(5)は仏教を中心にしています。第2問は、(1)薩長を中心とした幕末の政治過程、(2)尾崎行雄が関係する政治的な出来事、(3)高度経済成長と環境問題についてです。A方式3日目の第1問は、(1)・(2)対馬から見た日本の対外関係、(3)生徒の目線に立ったモンゴル襲来の学習、(4)・(5)は図表を読み解きながら室町～江戸時代の日朝関係を整理しました。第2問は、財閥史をテーマに(1)明治初期の政治、(2)明治期に日本で活躍した外国人、(3)1920年代の日本経済、(4)戦後の文化を多角的に問いました。

B方式1日目の第1問は、(1)弥生時代の農耕・文化、(2)・(3)7～10世紀の土地制度を中心に出題しました。(4)室町期の宗教、(5)江戸時代の農業技術、(6)は江戸時代の経済から出題しています。第2問は、(1)立憲政治の導入過程を加藤弘之の「鄰艸」を軸にしながらか出題しました。この史料を知らなくても解けるレベルです。

(2)日清戦争後の社会と経済に焦点を当てました。(3)第一次大戦期からの国内外の動きを、(4)昭和戦前期から戦後の日中関係を連続的に捉えました。B方式2日目の第1問は、(1)～(3)では古代の宗教と政治を様々な角度から考える問題を出しています。(4)鎌倉幕府の政治と新仏教について、(5)江戸時代の宗教と民衆について問いました。第2問は、(1)戦争と対外関係および戦後経済、(2)明治期から戦後にかけての金融をめぐる問題を俯瞰しています。

D方式の第1問は、(1)日本の警察制度の変遷、(2)戒厳令の歴史的展開を縦軸にして、横軸に同時代の事象も見据えながら出題しています。第2問は、(1)国会開設の詔について、(2)明治の殖産興業政策、(3)昭和末期から平成にかけての日本政治から出題しました。

採点結果から垣間見られることとして、総じて語句選択問題は正答率が高くなりました。時代ごとの主要な出来事や登場人物については、かなり正確に把握できている証拠です。D方式第1問のGHQに関する問題などは正答率が高かったのですが、A方式2日目の第2問問9の政党名や条列名については、似通った名称のものが混ざっていたためか低い正答率でした。また、事件の説明や時代背景を読み取る問題についても正答率が低くなっています。さらに弱点とみられることとして、B方式1日目の第2問問2や問4のように、類似する人物や事実の区別が必要な問題は苦手なようです。教科書の記述にある事柄は正確に修得しておいてください。

● 学習上のアドバイス

何よりもまず基本となる教科書の内容をていねいに読み込んで理解することです。大きな歴史の流れに沿った主要な出来事の成り立ちや概要を理解したうえで、さらに時代をまたいだ類似の制度などの細かな違いを整理しておくことが肝心です。そのうえで、用語集や図録・資料集、年表なども活用して知識の補完をしていってください。教科書にあげられた写真や図表などの資料からは文字では記述しきれない事象を読み取ることができます。加えて資料集などを利用して詳しく調べてみればさらに知識の幅を広げることができます。さらに大切なことは、時代の流れに沿って一つ一つの出来事とその前後関係から位置づけ、ストーリーとして理解していくことです。時代背景とともに大きく俯瞰して理解することは試験対策としても有効ですが、将来にも役立つ知的資産として記憶され蓄積されます。

● 出題の基本方針

世界史は、高校での学習内容を出題の基礎と位置づけ、基本的には高校の教科書に記載されている内容を問います。

暗記に偏らない知識を確認するため、空所補充問題に加え、内容の理解を問う文章選択問題、写真や図版などの資料を活用した出題も行いました。

● 出題内容とねらい、採点講評

出題のねらいは、暗記の程度を問うより、歴史の流れを問うことで、どれだけ理解できているのかを評価する点にあります。

地域や時代などが異なる2つの大問から各25問ほどを、政治・経済・文化など幅広い分野について出題しています。基本的に時代が古い方を第1問、新しい方を第2問としています。

【A方式1日目】

第1問はイスラーム史、第2問は近代以降のヨーロッパから出題しました。第1問と第2問の正答率は、ともに5割半ば程度であり、概ね標準的な結果となりました。特に正答率の低かった問題として、第2問の間3があげられます(正答率8.7%)。約半数の受験生が④を選択していましたが、問題文をよく確認するようにしましょう(正解は③「プロイセンで自由主義内閣が成立した」)。

【A方式2日目】

第1問は中世・近世ヨーロッパ、第2問はインド史から出題しました。第1問の正答率は6割半ば、第2問の正答率は7割程度でした。全体として、よくできていました。

【A方式3日目】

第1問は明から清にかけて、第2問はアメリカ史から出題しました。第1問の正答率は8割程度と非常に高く、第2問の正答率は7割程度でした。全体として、非常によくできていました。

なお、試験日ごとに偏差値にもとづく得点調整が行われますので、受験日による有利不利はありません。

【B方式1日目】

第1問は後漢から唐にかけて、および朝鮮史から、第2問はロシア史から出題しました。第1問の正答率は6割程度でしたが、第2問の正答率は4割半ば程度でした。今なお問題となるロシアと周辺諸国の緊張関係は、歴史的な視点から観察することも大切です。

【B方式2日目】

第1問は古代オリエントと地中海世界から、第2問はオスマン帝国を中心に出了題しました。第1問の正答率は5割半ば程度でしたが、第2問の正答率は4割半ば程度にとどまりました。特に正答率の低かった問題として、オスマン帝国が領有したことのある都市に関する第2問の間13(正答率4.7%)があげられます(正解は②「アデン」)。都市や領域は、地図なども活用して位置や関係を把握できるようにしておきましょう。

A方式とB方式に共通することとして、例年、第1問より時代の下った第2問の正答率は下がる傾向にあります。2022年度も同様の傾向が見られました。

その他、受験生に一般に見られる傾向として、語句選択よりも文章選択の正答率が低いことがあげられます。語句は、説明できる程度に理解する必要があります。また、地図や画像を使用した設問の正答率も下がる傾向にあります。写真や地図なども日頃から活用し、可視化された知識の吸収に努めてください。

● 学習上のアドバイス

よく世界史は暗記科目だと言われていますが、そうではありません。確かに覚えなくてはならないことは多いですが、歴史の流れを理解せずに丸暗記をするだけでは限界がありますし、意味もありません。

歴史の流れを理解するには、5W1H、因果関係、過去・現在との対比の視点をもつことが大切です。そして入試問題で問われるのも、主にこうした事柄です。教科書、参考書などを読む際は、ただ何となく読むのではなく、歴史の流れを意識してください。また、興味を覚えた国や時代があれば、新書や専門書にあたって掘り下げてみるのも面白いと思います。知的な好奇心をぜひ大切にしてください。

教養の核となるのは、なによりも人類の経験です。人は歴史をコントロールできると捉えがちですが、その巨大な流れはそれほど簡単には変化しないとも言われています。私たちは今なお遠い過去からの影響を受けており、その中には先史時代の出来事さえ含まれています。

歴史を素材にして考えを深め、知識や教養を身につけてほしいと思います。

● 出題の基本方針

2022年度入試の出題方針も例年通りです。教科書を中心として基礎的な知識とその応用を問うとともに、現代社会の現状や課題について主体的に関心をもって学習を深めていることができているかどうかを確認するために、深い知識や時事的な知識を問う問題も出題しています。

2022年度の出題分野は以下の通りです。A方式1日目は新型コロナウイルス感染症拡大以前の日本経済の諸課題、近代から現代までの西洋哲学に関する出題です。2日目は難民問題と金融、3日目は地球環境問題、日本の地方自治および選挙制度に関する出題です。広く現代社会に関する知識を問う問題となっています。

● 出題内容とねらい、採点講評**【A方式1日目】**

第1問は1985年以降の日本における急激な円高、その後のバブル経済やバブル崩壊を通じた諸課題を問う設問です。現在においても、外国為替レートの変動の日本への影響は大きく変化していませんので、そのことを確認する設問としています。①～④は外国為替レートを巡る基礎的な知識や円高の経済への影響を問う問題です。⑤～⑪はバブル経済やバブル崩壊の影響を問う出題です。⑫～⑳はバブル崩壊後の低成長、それに対する日本の政策対応を確認する出題です。

第2問はルネサンス期の宗教改革から近代的な世界観の構築、20世紀の現代哲学までの変遷を問う設問です。㉑～㉓は宗教改革から経験論および合理論、ドイツ観念論までを概観し出題しています。㉔～㉖は実存主義から構造主義、フランクフルト学派までを問う内容となっています。学生どうしのトークアプリでのやりとりを問題文とすることで、歴史的な変遷をわかりやすく説明した設問となっています。

【A方式2日目】

第1問は国連のデータを使って難民問題について問うています。①～⑦は難民問題の定義や対策および現状に関する設問です。⑧～⑱では、世界で多くの難民を発生させることになった複数の事例について、㉑・㉒では日本の難民対応について出題しています。

第2問は金融の基礎的な知識からバブル経済・バブル崩壊後の金融について問う出題です。㉑～㉓までは金融に関する基礎的な知識を問う出題です。㉔～㉖までは日本銀行（中央銀行）の役割や機能について問う

設問です。㉗～㉙まではバブル崩壊後の金融システムにおける諸課題について基礎的な知識を問う内容となっています。

【A方式3日目】

第1問は地球環境問題への取組に関して歴史的な経緯を踏まえてその重要性を確認する設問となっています。①～⑥は経済成長と地球環境問題との関連について問う内容です。⑦～⑫までは、地球規模で影響する環境問題についての具体的な対応を問う設問となっています。⑬～⑳までは日本の環境問題、特に四大公害に関して問う設問となっています。

第2問は日本の地方自治と選挙制度に関する設問です。㉑～㉓では地方自治制度に関する知識と、日本の地方自治の特徴を時事的な設問を交えて問います。㉔～㉙は民主的な選挙制度について、衆議院議員の選挙制度の変遷を題材とした問題となっています。

● 学習上のアドバイス

多くの出題は教科書に基づいた基礎的な設問であり、教科書の内容をしっかりと学習することが第一に重要です。また、教科書には多くの図表が掲載されています。教科書の本文には詳述されていないことが図表を通して理解できるようにも設定されています。これをさらに深く理解するためには、副読本や資料集だけでなく、新聞やインターネットなどの報道を活用して社会の動きを捉えることが必要です。また、現代社会の教科に特有な用語もあります。用語集をもとに用語を正確に理解するようにしてください。

他方で、現代社会は多くの課題に直面しています。たとえば、新型コロナウイルス感染症拡大により、社会の在り様までが議論されています。

その際に重要なのは、新たな問題が生じたことにより見えづらくなった、未解決な多くの諸課題がどのようになっているのかについても目を向けることです。そのためにも、現代社会を学ぶ際には、教科書の内容だけではなく、新聞やインターネットなどから主体的に現代社会が抱える問題に関心を抱き、考察しようとする姿勢が大事です。

● 出題の基本方針

出題範囲は「数学Ⅰ・Ⅱ・A」で、各方式・日程で問題に偏りがないように出題を行っています。出題分野は数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数、微分法と積分法、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質です。各日程前半の問題は基本的な理解を問うことを目的としています。そのため、問題の水準は多くの問題で教科書の例題、演習問題、章末問題を基準にしたものを出题しています。後半の問題や、一部の問題では応用的な問題を出题しています。しかしそれらも、基本的には教科書の問題を組み合わせたものを出题しています。

● 出題内容とねらい、採点講評

全方式・日程とも、第1問・第2問はそれぞれの分野の教科書の例題、練習問題、章末問題レベルの問題をまんべんなく出題しています。第3問はそれほど問題の難易度は変わりませんが、誘導問題のついた長めの問題や、複数の分野の知識を使う複合的な問題を出题しています。正答率が特に低かったのはA方式2日目の第3問²⁾です。検査についての問題で、教科書の文章問題の例題に即して作成しましたが、特異度という見慣れない言葉を使い、検査の種類を2種類使った問題を出题したためか、教科書の例題から作成したii)の正答率も低かったです。

B方式の第4問では、総合力を問うことを目的に、グラフをきちんと作図し、計算する力を問う問題を出题しました。特に正答率の低かったB方式2日目の第4問は一見すると多くの受験生にとって初めて見る y の2次関数ですが、数学Ⅰの教科書の関数の定義に従って、そのグラフを描くことができれば、数学Ⅰ・Ⅱの範囲の知識で解くことができる問題でした。採点結果を見ると、 x の2次関数と直線の間の面積を計算する教科書の例題で見られる問題である²⁾も無記入の答案が多く、多くの受験生にとって時間が足りなかったようです。同様に、B方式1日目の第4問の²⁾・³⁾も時間切れで無記入の答案が多かったようです。

最後に全体的な採点の講評としては、2次関数、3次関数、指数関数、対数関数、三角関数を用いた方程式や関数の最大・最小の問題については正答率が比較的高いです。特に指数関数・対数関数の計算の正答率は以前より上がってきていると思います。一方で、三

角形の図形の性質の問題は基本的な問題でも正答率が低い傾向がありました。

大問別正答率 (%)

	第1問	第2問	第3問	第4問	計
A方式1日目	55	71	56	—	63
A方式2日目	46	51	90	—	49
A方式3日目	41	63	68	—	59
B方式1日目	54	42	59	41	49
B方式2日目	52	30	28	10	30
D方式	35	45	54	—	44

● 学習上のアドバイス

教科書を用いた学習が基本です。基本的な問題を確実に解けるようにしてください。その際、図やグラフをきちんと作図することも重要です。これまで本学で出題された応用力を問う難しい問題も、図が描けると難易度が下がる問題が多いと思います。

また、特定の分野にだけでなく、幅広く学習することで、たとえばA方式1日目の第3問¹⁾などのような複合問題も対処できるようになると思います。

● 出題内容

養老孟司『バカの壁』（新潮社、2003年）より抜粋し、出題のため一部変更しました。「人間や人間の脳は、他者とわかり合う方向で進化を遂げてきた。しかし、それに抗う動きがあり、その代表が個性の尊重云々である。人間の意識に従うと、共通性を追求するのが本来自然であり、個性は初めから与えられているものである。個性を伸ばすよりも他者の気持ちや考えが理解できるようになることが重要である」。以上が課題文の大意です。

問1は本文の要約です。

問2では個性的であることについて思うところを述べるよう求めました。

● 採点方法

各々の答案について2名が採点にあたり、平均点を得点としています。課題文の内容を的確に把握しているか、大意に即した論述を行っているか、文章の表現や構成が適切であるか、という観点から、本学で学ぶにあたって十分な学力を備えているか否かを評価しました。

● 講評

問1の要約では、受験生の多くは、課題文の大意を的確に把握していました。ただし、課題文をただ抜粋するもの、課題文の一部にしか言及していない答案も見られました。

問2では、課題文の大意を踏まえたうえで、それでも個性的であることの大切さを説く論述が多数を占めました。したがって、他の意見を踏まえつつ、自身の考えを展開するための論理構成や文章表現の巧拙が、評価の良し悪しを左右する主な要因となりました。

● 出題内容

大野晋『日本語と私』の一節を出題しました。この文章に基づく設問を2問設定し、問1は本文の要約を300字以内で記述、問2は課題文につけた下線部分について、受験生の考えを500字以内で書くことを求めました。

● 採点方法

60点を上限とし、問1を30点、問2を30点の配点としました。

問1は、課題文の内容を正しく読み取り、要約しているかという観点から採点しました。

問2は、下線部分の内容を正しく読み取り、受験生本人の考えが論理的に書かれているかという点に注目して採点しました。論理的な文章としての評価は、論旨の一貫性、内容の具体性、日本語表現などを指標に判断しました。

● 講評

問1については、ほとんどの受験生が課題文を正しく要約できていました。そのため、課題文を誤読してしまった、少ない受験生が目立つ結果になりました。

問2は、欧米と日本の比較が主題となる論述問題ですが、欧米の方を価値あるものとする優等生的なものが大半でした。一般的な解答であるため、論理も平板になっていました。もちろん合格に必要な学力があるかという点で採点していますが、若者らしいチャレンジ精神が感じられなかったことは残念に思われました。ごく一部の受験生は、解答をあらかじめ準備していて、論旨を強引にそこにつなげているような文章を書いていました。そのため、結論が課題文の内容から離れてしまっていました。

出題内容

課題文は2021年8月25日『読売新聞』朝刊、「共生社会考える契機にしよう」の全文です。内容は新型コロナウイルスの流行の中、開催された東京パラリンピックについての文章です。多くの国が参加する一方で参加を見合わせた国があること、日本選手団の旗手となった谷選手を例にあげた選手の努力、無観客試合となった一方で児童生徒の観戦の意義と問題点、感染対策と耐暑法、二度目の開催となる東京大会の意義と期待について書かれています。それらを読み取り、それぞれを要約することを問1とし、スポーツ競技者としての自らの取り組みを具体的事例をあげて述べることを問2としました。

採点方法

問1は5つの論点があげられている本文を読み取り、それぞれを要約することを求めました。順序は問いません。本文に合致した要約ができているか、各8点、計40点としました。本文の読み取りができているか、正しく個別の内容が区別できているか、単なる本文の引き写しに終わっていないかを判断しました。

問2は「共生社会の実現」「具体的事例」の二点について書けているかを見ました。こちらも40点の配点で、内容の整合性があるか、先の二点について述べられているかを中心に、求められている文字数が書けているか、漢字などの記述は正確かを判断し、加点・減点のうえ採点しました。合計で80点となります。

講評

問1については全体によくできており、正しく内容を把握、分類できているものが多くありました。一部については要約ではなく引用に終始したものもあり、その際には引用箇所が適切なものについては減点のうえ得点としました。まれに把握すべき内容が不明確なもの、一つの問題点について二点として記述しているものがあり、その場合も減点し、採点を行いました。

問2は「実現」のためにどうするかが書けているか、「具体的事例」を述べられているかを採点基準としました。将来的な見通しを明確にもっている答案も多く、競技者としての自覚が読み取れるものには高得点のものもありました。